

研究機関名：旭川医科大学

成年月日：2025 年 5 月 15 日（第 1 版）

承認番号	25005
課題名	妊産婦の体組成が新生児の出生体重に与える影響についての解明
研究期間	西暦 2025 年 5 月 26 日（実施許可日） ～ 2026 年 3 月 31 日
研究の対象	2022 年 5 月～2025 年 4 月に妊娠初期（妊娠 14 週未満）で当院を受診し、当院で出産した方
利用する試料・情報の種類	☒ 診療情報（詳細：母体の分娩時年齢、経産回数、不妊治療の種類、既往歴、非妊時体重、母体身長、非妊時 BMI、分娩直前体重、妊娠中の体重増加量、妊娠初期・中期・後期・産後 1 か月の血液検査結果、産科合併症、分娩週数、分娩様式、児の出生体重、出生体重パーセンタイル値、性別、先天異常の有無 等 ） ☐ 手術、検査等で採取した組織（対象臓器等名： ） ☐ 血液 ☒ その他（「妊産婦の骨格筋量が産後のメンタルヘルスに与える影響についての解明（承認番号 21191）」で得られた、妊娠初期・中期・後期・産後 1 か月の骨格筋量・水分量・脂肪量、妊娠前・妊娠中の身体活動量）
利用予定日	開始日：実施許可日から 1 ヶ月後
試料・情報の管理について責任を有する者	旭川医科大学 学長 西川 祐司
研究の意義、目的	日本では、低出生体重児（出生体重が 2500g 未満の児）の割合が増加していることが心配されています。私たちは、その原因として、女性のやせが関連していることを明らかにしました。また、妊産婦さんの筋肉量、脂肪量、水分量といった体組成が新生児の出生体重に関連することが調査されていますが、体組成の測定時期や測定項目が研究ごとに異なっており、十分に明らかになっていないわけではありません。 今回、各妊娠中および産後の妊産婦さんの体組成が、新生児の出生体重にどのような影響を与えるかを明らかにして、新生児の出生体重に影響を及ぼす新たなリスク因子や、低出生体重児の原因となる体組成を調査することを目的としています。
研究の方法	研究に参加していただく妊産婦さんは、当院で出産した方です。本研究ではマルチ周波数体組成計を使用して計測した結果を用います。産婦人科外来で行われた妊娠初期（妊娠 14 週未満）、妊娠中期（妊娠 24 週～27 週）、妊娠後期（妊娠 34 週～37 週）、産後 1 か月の計 4 回の測定結果を用います。測定項目として、体重や体脂肪率、筋肉量、脂肪量、水分量などが利用されます。 妊産婦さんの体組成の測定結果と新生児の出生体重を比較検討します。
その他	特記事項はありません。

お問い合わせ先	本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としないので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。 照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先： 住所：北海道旭川市緑が丘東2条1丁目1番1号 旭川医科大学 産婦人科学講座 電話：0166-68-2562 担当者氏名：中西 研太郎 研究責任者：旭川医科大学病院周産母子センター 講師 中西 研太郎
---------	---